

令和2年5月12日  
株式会社シーエス・ワテン  
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

### 番組審議会議事録

- ・日時 令和2年4月15日(水)
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面での開催
- ・参加者 審議委員総数 7名
  - 委員長 片岡 朋行(ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士)
  - 委員 松居 秀之(株式会社ピクス 常務取締役)
  - 関谷 信浩(東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長)
  - 竹村 謙二郎(株式会社oricon ME 雑誌事業本部 コンフィデンス編集部 編集長)
  - 野村 達矢(一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長)
  - 芳賀 康浩(青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授)
  - 松尾 健司(株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー)

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワテン)

福田 泉(代表取締役社長)  
谷 俊之(編成局長)

(番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社)

井股 進(代表取締役社長)  
本間 雅彦(クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター)  
戸田 裕介(クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック マネージャー)  
岡田 純明(コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 シニアマネージャー)

- ・審議番組 「Official髭男dism “Traveler’s Radio”」
- ・放送概要 2019年10月26日(土) 21時～22時
- ・番組内容 島根大学と松江高専の卒業生で2012年に結成されたOfficial髭男dism。

2019年に発表されたシングル「P r e t e n d e r」が大ヒットを記録し、一気に国民的アーティストへ駆け上がった彼らが同年10月にリリースしたニューアルバムを記念して制作された特別番組を10月26日(土)に放送した。番組はメンバー4人がロンドンバスに乗って都内を移動するラジオ形式の内容となっており、アルバムについての話や、SNSでリアルタイムにファンから募集した質問に答えたり、彼らのファンを公言する著名人からのメッセージを紹介するなど、2019年のブレイクを機に彼らを知った視聴者にもアーティストの魅力が伝わるような構成を目指した。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

- 番組全体を通して、放送倫理や基準に抵触している部分は無かった。
- 従来の番組審議対象番組は、該当番組とその関連番組とでお互いが補完する、番組編成によりアーティストの魅力を包括的に伝えるものが多く、単体の番組だけではコアなファン以外にはなかなか裾野が広がらない印象を受けていたが、今回の番組はメンバーによるラジオ的なトークを中心にしながら、ミュージックビデオの映像や彼らの魅力を伝えるゲストコメント等もあり、幅広い視聴者にアーティストの魅力を訴求する番組だったと感じた。
- 全体にバンドの音楽、各メンバー等を多角的に紹介しており、興味深く面白かった。また、番組全体の構成、作り方が自然な流れであざとくないところが良く、好感を持てた。
- 企画自体はとても興味深く、より深い音楽ファンを創出していくという意味でも意義深く、是非シリーズ化して、さまざまなアーティストで制作していただきたい。
- ニューアルバムをアーティスト自身がラジオ番組風に語っていくという企画自体はMTVならではのあり、とても期待感があった。アーティストの魅力、特に人柄を知ることができ、より興味を持つようになった。
- 各ミュージックビデオの撮影秘話を各メンバーが代わる代わる説明する部分などは、わかりやすく、且つメンバーのキャラクターもバランス良く構成されていた。
- メンバーのトークが本音に近く、視聴者との心理的な距離感が近く感じられる印象を受けた。また、ロンドンバスを使った演出も、単なる密室のトーク番組とは違う開放感を感じさせてくれる役割を担っており、非常に質の高い番組だった。
- 2階建てバスの東京ロケでのラジオステーション設定、ミュージックビデオの後半からミュージックビデオの撮影話や曲の制作話などの構成も音楽的理解を深め映像的視点などMTVならではのだったと思う。
- 出演したアーティストにとっても、プロモーション効果として期待するスタッフサイドにとっても、とても効力のある番組になったと思う。
- コメントゲストのバランスもジャンルの幅広く、曲の歌詞の良さや先輩アーティストとしてのコメント、バンドの成長ぶりを見守ってきた著名人など、彼らの魅力を深堀

するのに適しており、登場人数の多さも含め豊富で興味深い内容であった。また、ビデオコメントではなく現場出演を交えるなど工夫もあって良かった。

○ミュージックビデオの見え方が変わるエピソードもあり、“ラジオ風トーク+ミュージックビデオ”という構成は成功しているようにも思ったが、楽曲やライブでの演奏についてなど、もっと深く聴きたいと思う場面もあった。

一方で、“ラジオ”という方向で行くならもっとリスナー投稿の比重を増やして、双方向なコミュニケーションを見たかった面もあった。

○全体的にリラックスしたメンバーの姿や、やりとりは見ていて楽しかったものの、アナウンサーやアシスタントなどの進行役が入ったほうが、もっとMTVらしい音楽番組になったのではないか。

○アルバム制作に関する音楽的アプローチなど、作品の掘り下げという点では少し物足りない印象があった。もっとコアに語りきってこそ、“ラジオ”という企画にも合致したのではないか。

○あえて気になった点を挙げるなら、バス車内のハロウィン装飾は、メンバーのトークで十分楽しめたので不要だったように感じた。また、バスの走行音で若干メンバーの話が聞こえにくい部分があった。

○MTVや洋楽に繋げる導線、例えば好きな洋楽アーティストや、影響を受けた洋楽アーティストなどに触れてもよかったように思う。

○ラジオでは放送していないか？

(MTV側)

今回はラジオでの展開はなかった。今後は連動なども検討していきたい。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和2年4月15日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和2年5月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

以上